

マタイの福音書 第6章 26節

「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養っていてくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。」

自然の成り行きを見て教えられることは山ほどある。地に這うようにして生きる者にとって、空を見上げ、そこを縦横無尽に飛び交う鳥を見れば、一瞬かもしれないが地上のざわつきを忘れる。さらに、飛ぶ鳥を包む白い雲、広がる青空まで見るならばばらく見入ってしまう。鳥には鳥なりの生きる、飛ぶ苦勞はあるはずだ。しかし、その一切を見守るお方がいることを知らされる。だから、鳥は今日も飛ぶことが出来る。

鳥ではないが、ベランダでお腹を上にして横たわるセミがいる。生き途絶えた姿である。つい先ほどまで盛夏の響きを奏でていたのに、いまは横たわる。受けたいのちを生き抜いた姿である。これも鳥と同じように見守られていたはずである。そして、役割を終えたなら、上を向いて横たわるだけでよいのである。

あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。与えられたいのちを活かし、生き抜くことが期待されている。そして、地上の歩みが終わるなら、永遠に天のいのちを生きる。

2022年8月17日